

□ 12
2941
7



大和家秘本卷之七目錄

第一 仲月日とうあふ事

奥のさしあふ事

用ひつゝあふ物乃事

そのあふと物乃事

用ひつゝあふ事

三日前のあふ事

一日あふ事

あふ物とつゝあふ事

あふとあふ事

あふとあふ事

去五味均平蔵



大和...

牙二

夙興菓子粥菓酒とすうくゆり
 神主と制して修まつらじらう
 淨神位禊衣初秋重秋終秋食
 圖門碓門交酢禊神納ま事
 何系祝文の式乃事
 徹と心他法乃事
 後と心以中此事
 初祀とまらあ事
 冬と心小系始祀事
 忌物とつらあ事
 具膳事

大和...

才三

夙興菓子粥菓酒とすうくゆり
 神主と制して修まつらじらう
 淨神位禊衣初秋重秋終秋食
 圖門碓門交酢禊神納ま事
 何系祝文の式乃事
 徹と心他法乃事
 後と心以中此事
 初祀とまらあ事
 冬と心小系始祀事
 忌物とつらあ事
 具膳事

大和...

那祓神事

先祀とまらるる祝文の式乃事

第四 系祓く事

季秋系祓事

系祓洛神色殿初秋至秋迄

備食園門啓門支那祓神納ま

禱とまらるる祝文の事

第五 忌日の系乃事

并祝文の事

中六 奠とまらるる事

并祝文の事



大和家後述

系礼

無禮山の云々集子大全集に歳考の祝文あり

第一 時系乃事

一 時系乃事 仲月と用らる也 かの月乃下旬の

ら 考小仲月乃下旬中旬下旬のうら

うしてわらひの日又ハ其れ日と一日を

ひげ日小考系と祠堂乃申門の布小ま

事 而小向て 考考者合祀後盥整とま

うけと也 家小時系乃事 仲月と用らる也

友林乃内乃内と 二月六月八月之月と

て多約と告ぐ。社より存続集將以年月
 某日社薦歳事於社薦既以日教若云
 て云ね。りく列位より人下下礼ね
 て社薦堂の門一箇よりりて。人下下まてあま
 びりひて立。概事乃志門のあままてひり小
 びりひあまて。社のみ知どうふふ。社主人
 乃志よまて令下して。存続集將以年月
 某日社薦歳事於社薦有司具於社薦
 概事のみみかこて。社薦とてあまて也。社
 薦は社薦あり。社薦山乃りあまは。某子
 乃志よ。社薦とて。社薦日定まら。社薦

つて多約と告ぐ。社より存続集將以年月
 某日社薦歳事於社薦既以日教若云
 て云ね。りく列位より人下下礼ね
 て社薦堂の門一箇よりりて。人下下まてあま
 びりひて立。概事乃志門のあままてひり小
 びりひあまて。社のみ知どうふふ。社主人
 乃志よまて令下して。存続集將以年月
 某日社薦歳事於社薦有司具於社薦
 概事のみみかこて。社薦とてあまて也。社
 薦は社薦あり。社薦山乃りあまは。某子
 乃志よ。社薦とて。社薦日定まら。社薦

ちがひあり。さしおろしく今日由へき人とささむら
く契一人通契二人とささむらありひのち
あるひもささむらと契友の中を三人をささむら
ひささむら契友とありをささむら何よのちとあり
らなむらやうなすむら也契一人 契ふらむらあり
執事の名

一時宗乃目ありと目宗あり主人は下男子のち
みふ中門乃知よて齊し。主殿は下女子はみ
乃中門の月ありて齊し。下男子には流しと
契とささむらありは契とささむらありの契と
事りむ。福とささむらあり契とささむらあり

とささむらありは契とささむらあり

一時宗乃目のちあり主人は下男子乃ありひふ
執事のちとささむらありは契とささむらあり
とありひのちとささむらありは契とささむらあり
りありひのちとささむらありは契とささむらあり
ありありひのちとささむらありは契とささむらあり
考契とささむらありは契とささむらあり
まつありひのちとささむらありは契とささむらあり
しと契一人 椅子二卓一とささむらありは契とささむらあり
小第沙とささむらありは契とささむらありは契とささむらあり
とささむらありは契とささむらありは契とささむらあり

一 豆物とにあり。相堂の二冊に卑一勝
とて香菓と。ちうは香炉香合燭具と
也。香菓乃ち小常妙也。又香菓北東南乃
階乃ち玄酒の架を也。そのこは酒乃架を
也。又乃ち卑子一勝と酒架乃東よ也。を
と酒架蓋蓋架と入不獲と也。取とハ
すつ乃肉と也。又香菓乃西南乃階の
也。持持稱香起火解と也。又卑子一勝と
階乃ち鹽と拭とつる也。そのこは香
のせつる架のきば又陳饌乃ち海と鹽の東

了ききんふあり

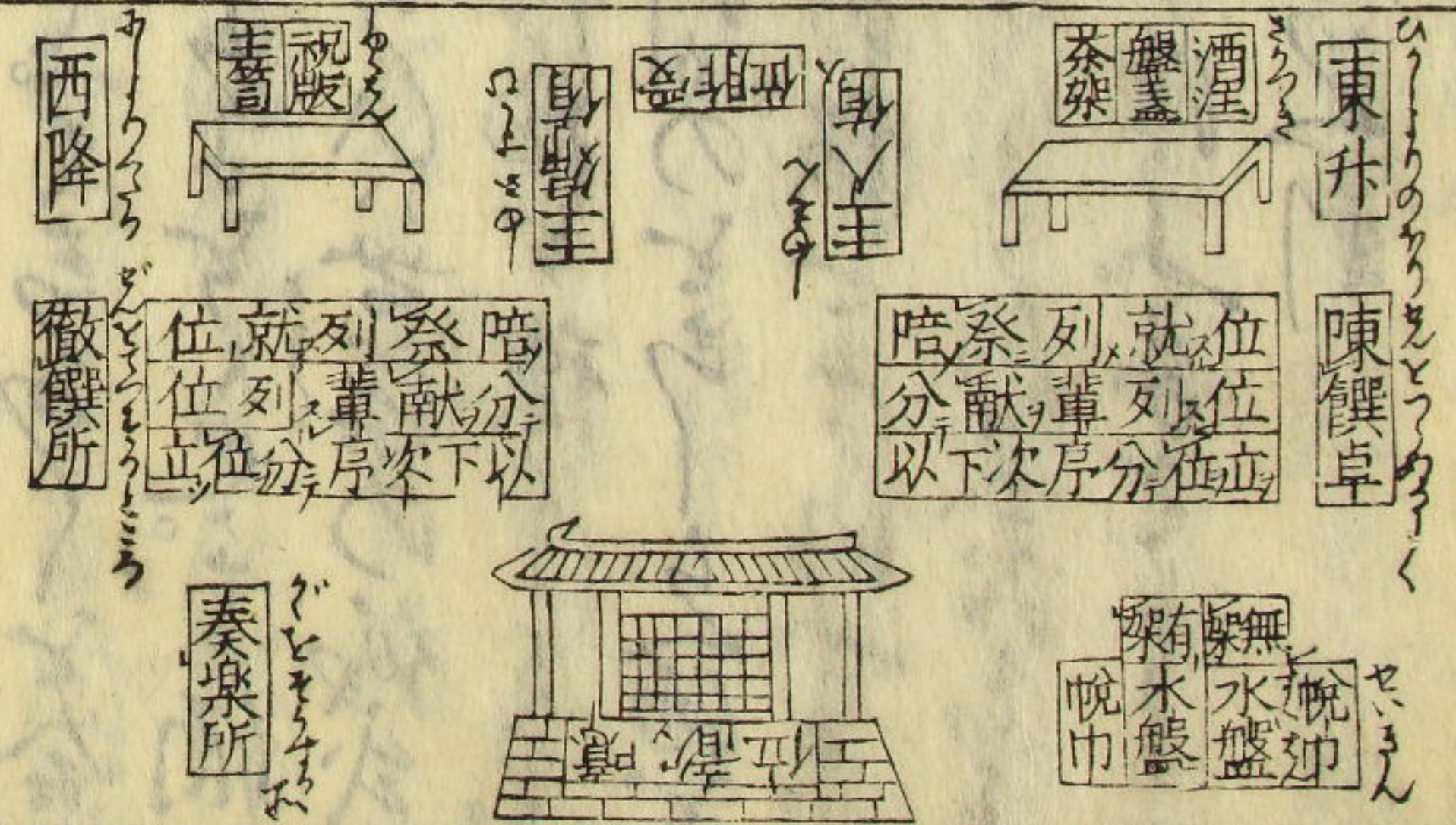
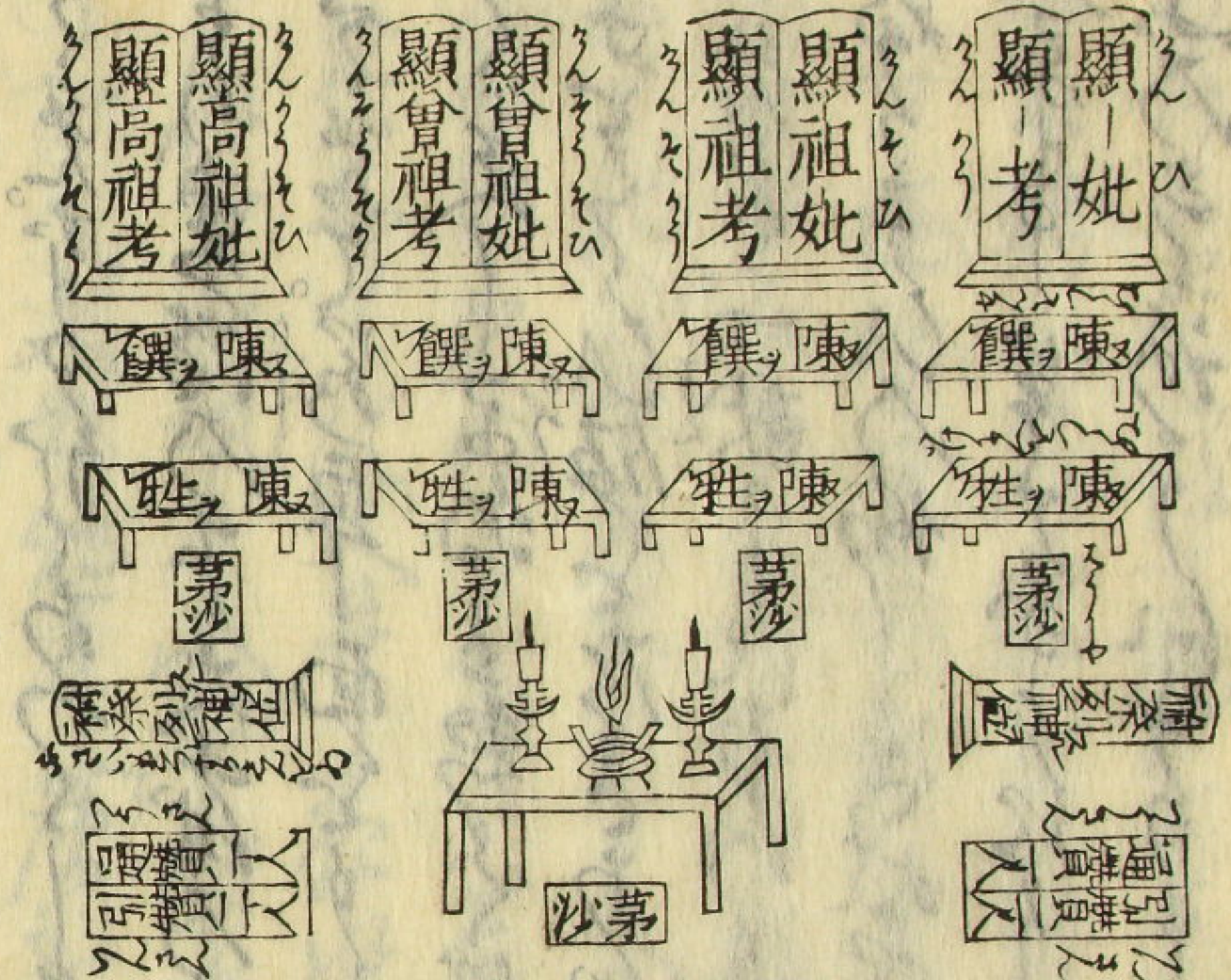
一 牲とて移すと見。そのこは豆物とあり。事先
主人男子のちとつてて牲とてつる也。あ
つるこはとれとん。見とつる。主婦中を
了菓乃豆物あびは金酒ととてはの物と
一 膳とあり。あり事。先主婦のちは婦女
とあり。つるは饌とあり。神主乃位とあり。
菓子六品野菜脯醢之類。魚肉腰以糕
とのく一魚。飯と入を梳る。炙る肉二串
とてし香菓とあり。つる。あは人
食つる也。又大極法氣あは。事とあり。事

大日家七

らものろあよあつあるとさ。はのろなるらあやあ
かあわけさて。は。鹿とさむあつた。さ
魚肉米麩食の麩とさ。つごのらあや
ひりぐ。塩。堂。菜の麩とあひま。うてう。糸
つごのらあや。果子の麩をあぶ。げ。あ。を
あふ。つた。卑。のあ。又。卑。とさ。て。
ふ。う。け。あ。の。ま。あ。つ。と。さ。あ。り。け。あ。あ
ま。つ。た。あ。う。だ。又。井。花。水。と。さ。さ。て。さ。酒。と
。と。わ。と。小。瓶。う。あ。び。は。酒。瓶。と。た。架。の
。と。と。さ。又。出。焼。う。炭。と。わ。つ。て。真。肉。と
わ。つ。又。あ。と。瓶。う。て。茶。湯。と。さ。ら。と。は。ま。

婦。も。あ。く。し。婦。も。と。と。に。う。ら。り。乃。鹿。の。食。を
と。わ。と。さ。か。う。は。あ。く。し。と。さ。あ。く。と。合
子。小。の。東。階。乃。下。大。床。乃。下。よ。と。く。也。さ。酒
も。わ。と。さ。て。お。卑。面。と。り。ら。ひ。世。俗。の。飯。式
乃。と。と。と。子。的。よ。あ。く。世。物。と。襟。う。る。と。
卑。子。と。う。ひ。飯。と。た。さ。あ。の。あ。と。あ。ら。酒。と
わ。と。さ。く。一。献。と。た。あ。の。の。飯。と。その。時。事。
世。俗。ゆ。ら。う。ひ。乃。飯。と。た。さ。と。と。又。茶。湯。と
は。ふ。あ。ま。ま。ま。ま。と。た。う。は。ふ。あ。ま。ま。と
と。さ。乃。さ。酒。と。さ。う。と。の。利

正寢時祭之圖



每位設饌舊圖

妣位

考位

美醕 匙助 匙盤 飯
 米魚 炙肝 肉麩 食
 菜醢 菜醢 菜醢
 蔬脯 蔬脯 蔬脯
 果果 果果 果果

美醕 匙助 匙盤 飯
 米魚 炙肝 肉麩 食
 菜醢 菜醢 菜醢
 蔬脯 蔬脯 蔬脯
 果果 果果 果果

兩位並設饌圖

考妣

或 茶 米 隨 宜	果	茶食	魚	菜	膳	膳	膳	膳	膳	膳	膳
	果	茶食	茶食	肉膳	鹽	醋	醋	醋	醋	醋	醋
	果	茶食	茶食	肉膳	鹽	醋	醋	醋	醋	醋	醋
	果	茶食	茶食	肉膳	鹽	醋	醋	醋	醋	醋	醋
	果	茶食	茶食	肉膳	鹽	醋	醋	醋	醋	醋	醋
	果	茶食	茶食	肉膳	鹽	醋	醋	醋	醋	醋	醋

わんごらに在爾園少考
妣のくわぬくたにあり
せんちちけすきり代
八卑にかあきりとの
人家の履るせつせ
ぐておそく八客す
あつたに極すつ小考
れぬ位より小一卑
せんとまうく世活の
んゆり卓面のあつ
りいひ移るるる
あつた外けりそれ地ひ
うの客さきあれり
いふまじり

一 日子節小神主と初て壹位より一ひふす。
主人主婦一初堂此主人より初て壹位より一ひふす。

概事乃名横としくす神主と初。香茶茶

あふつらつしとつらつと若くたき。若ていつ。

存法其今仲某之月有事。於ある者初考妣

初考神主初就正寝茶伴。奠献として概

事の志神主と膳よのせ主人あふつらつ親

類わつらつあつた西夜よつらつ。主人の考の至

としを主母の妣の主としてけ。五拜の初る主

を以て主母と壹位より一ひふす也。

一 神と膳一饌とて初献。西献終献の合を

とてまうらつ門とらつ門といひ。膳とけ神主と

はつしあふもめら主人へ下はのりく若きり

八雲のどくふ海誓の志をわして神と海と
 くらに概事乃志酒瓶よりと儀と新帳中
 あり瓶の志のどい川誓乃志をとりわくひ若葉
 のあよつとてしびゆつとあきたら子弟一
 人乃らふをゆづりて茅沙乃誓あびし誓
 とまつとまにま合れとくまとり一人主人の志
 びぎまびさ酒海とて酒と志よ物くまおん
 つとて二人志よ志主人乃小誓ととり右の志
 小誓ととりてと海と茅沙の志よこ少け礼ね
 しての志乃志よま主人主母志よ誓佐の志
 びとまに概事乃志一人真因と志よ誓二人

米野合と志と一人養飯と志とまり
 主人主母志佐ととに志乃志とる人子弟に祈
 信りそめまなり中よ物献乃礼主人主佐
 の前よつと概事乃志志志と海とと志佐
 して一人つとて誓とととる也誓献終献の時
 も也れ也也誓乃志志志志乃志佐
 のあよつとてしびゆつとあきたら茅沙の
 らふとふをゆづりて海とと海と新帳中
 志とまに概事乃志佐の志佐の志とととと海と
 すら茅沙乃志よこまけならふ海とと海と
 け海と概事乃志とけならふ志佐乃志佐の

飲りも。主母膳をそまへ。門焚乃志主人とな
食とそめぬ。酒造とより具位に酒とそ
主母靈位とより飯の中は。世とより。とそ
ありとそまへ。おんまねる者。来乃方。とそ。礼
ね。我存より。おん。とそ。主人。下。皆。て。遊。焚
乃志。口。と。づ。る。也。口。の。時。は。と。そ。ま。へ。け。男
は。女。は。ち。り。と。そ。は。酒。造。と。より。と。そ。ま。へ。け。
と。そ。ま。へ。て。遊。焚。乃。志。口。と。より。と。そ。ま。へ。け。
り。の。存。入。と。そ。主人。主。母。と。より。お。茶。と。そ。実。考
地。乃。志。位。と。より。ぬ。五。飛。婦。女。は。附。位。り。と
と。福。酒。と。飲。服。と。より。あ。也。焚。乃。志。福。酒。と

飲りも。主母膳をそまへ。門焚乃志主人とな
食とそめぬ。酒造とより具位に酒とそ
主母靈位とより飯の中は。世とより。とそ
ありとそまへ。おんまねる者。来乃方。とそ。礼
ね。我存より。おん。とそ。主人。下。皆。て。遊。焚
乃志。口。と。づ。る。也。口。の。時。は。と。そ。ま。へ。け。男
は。女。は。ち。り。と。そ。は。酒。造。と。より。と。そ。ま。へ。け。
と。そ。ま。へ。て。遊。焚。乃。志。口。と。より。と。そ。ま。へ。け。
り。の。存。入。と。そ。主人。主。母。と。より。お。茶。と。そ。実。考
地。乃。志。位。と。より。ぬ。五。飛。婦。女。は。附。位。り。と
と。福。酒。と。飲。服。と。より。あ。也。焚。乃。志。福。酒。と

いざゆぐあり。祝服と主人よりけぐ。主人懸
 けけとせむせむとせむ。乃くよりいふ。たりとも
 ゆひりけく。福地らよとせむ。酒とせむ。
 のもせむ。あひ。ひは。祝と祝事。おあはれ。
 又とあせむ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 とこり。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 のと。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 つとせむ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 せむ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 つとせむ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 と。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。

此を祝文よ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 祝文とや。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 祝文よ。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 つとあり。
 一 祝文とや。あせむ。あせむ。あせむ。あせむ。
 維

○ 歳年。歳次。干支。幾月。干支。幾日。干支。
 朝。表。目。干支。考。主。孫。某。官。姓。名。敬。服。
 若。三。丁。
 顯高祖考某官府君
 顯高祖妣某封某氏

顯者 従考某官府君
 顯者 従考某封某氏
 顯者 従考某官府君
 顯者 従考某封某氏
 顯者 某封某氏
 顯者 某封某氏
 顯者 某封某氏
 顯者 某封某氏

一 神とて祠考ふとてはむらり同日の肉ふ
 某官 附食尚
 追歲 衆時 不務 承業 以
 其 官 附 食 尚

主婦 修物 入 入 入 入 入
 以 舟 八 福 海 菜 子 野 菜 魚 肉 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 無 念 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入
 夫 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 礼 生 不 用 多 礼 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 飯 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

主人は榊堂乃肉のむじらさ小座り。孩子は榊
一列りあかぬ男は母にあやわらせて降下母
を。若丹乃肉の年よりあつたときあつて。重
くはとてそのまゝあつたつてひごまらん。祝
辭してつり。祀事一既成祀考喜迎會伏惟
親由麻又福保孫官家。また。孝と祝事
乃あつたつ。そのまゝあつたつてひごまらん。祝
久り。若丹乃肉にのみあつたつてひごまらん。祝
主人座中乃人よ若しつ。祀事一既成乃福を
考す。油曹若しつ。と。祝して礼をあつたつ
る。若丹乃肉乃家の肉と儀す。つてひごまらん。

人若男子ととりふ。礼生乃あふれと。礼生
礼と。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
あつたつ。そのまゝあつたつてひごまらん。祝
親と。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
要と。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
つ。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
弟よ。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
の。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊

第一初祀と。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊
一初祀と。若しつ。家の肉のむじらさ小座り。孩子は榊

松尾の御入をまゐるあり。兵衛山の云。附録と乗
り候。あまの人始祖とゆつるも。とま子よと
あま。ま子れとあま。うら。い。は。れ。の。結。修。川
頭。理。と。り。く。こ。ね。と。お。き。と。つ。ら。い。き。け。り。色
ひ。一。始。祖。と。も。う。も。つ。ま。も。な。と。と。た。れ。は。い。れ。り
中。と。と。と。ら。り。と。と。ね。と。ま。り。く。ん。と。い。ら。り。と。儀
節。と。つ。ら。い。と。ら。り。と。
一。ま。ま。子。始。祖。と。ま。り。の。程。子。乃。云。始。祖。と。い。ま。り
乃。云。祖。の。事。也。を。一。陽。の。う。一。先。方。り。ぬ
よ。始。と。う。こ。ま。り。く。ら。ね。と。ま。り。の。あ。り。ま。り。目。の。と
目。あ。り。の。齋。と。と。と。中。の。時。あ。り。と。行。事。也。

お目小聖位とゆふも。ま。ま。り。ま。り。人。結。男。深。衣。と。云
て。概。事。一。ま。り。う。ひ。つ。け。と。初。堂。と。掃。除。一。と。お
と。あ。ひ。ま。り。ま。り。始。祖。乃。身。位。と。堂。の。西。中。也。乃
登。り。り。お。ま。り。も。ま。り。一。修。一。庫。内。と。云。是。位
乃。前。り。一。食。と。と。あ。ま。り。座。と。云。あり。
一。器。物。と。つ。わ。ま。り。も。大。祖。と。堂。中。一。お。ま。り。う。け。茶
と。か。一。と。物。と。煮。ふ。器。物。と。と。も。も。也。茶。第。以下。み。ま
と。並。物。と。茶。子。器。物。と。と。も。も。也。茶。第。以下。み。ま
時。あ。り。の。う。く。と。ゆ。也。ま。ね。結。女。名。祖。一。と。概。事
乃。ま。り。の。ひ。け。く。茶。乃。器。物。と。あ。ひ。ま。り。ま。り。一。掃。除。全
と。ま。り。先。果。子。乃。標。ら。り。盤。ら。り。杯。ら。り。水。盤。と。

大正九年

七

切肉を盛るるは入る也。脯時ハ車中の時と云々
版乃とれたアリ

一 毛血乃盤腥肉乃盤肝乃肉切肉と
階下乃盤の雌れらふを。未と階下のうた梅の
肉入す一切乃肉と階乃肉入て未とたきて煮。盤
る杆ちつと盤乃床のうらうとあり。
一 同朝未のむと衣と着て座ふつ。まの片ハ時
系乃物とさくたあ。ま也。
一 神と階一神は海よりま。ま入もとありむ。
あづ乃盤と持て。ま中乃火盤のまこま
ひとまらと。善くわ。善孫某今以名を
年三子皇始祖考白皇始祖妣敬徳尊矣。隆
居神位恭伸。眞訣とまて。胎と火野の内

果子を食乃梅の南乃揚よとま。盤茶よとま。
みすわけとま。盤をまつ。まもも。卑のぬやを。
まもも。食乃梅の南乃揚乃東とあり。小。るま三又
胎乃盤と西階乃卑子のまふとま。祀板あり。り
を。酒は好酒乃盤茶。胎と入。系盤。むつ。ま
て。まづま。深衣とま。祀事乃あり。ひつ。を
一 毛血乃盤腥肉乃盤肝乃肉切肉と
階下乃盤の雌れらふを。未と階下のうた梅の
肉入す一切乃肉と階乃肉入て未とたきて煮。盤
る杆ちつと盤乃床のうらうとあり。
一 同朝未のむと衣と着て座ふつ。まの片ハ時
系乃物とさくたあ。ま也。
一 神と階一神は海よりま。ま入もとありむ。
あづ乃盤と持て。ま中乃火盤のまこま
ひとまらと。善くわ。善孫某今以名を
年三子皇始祖考白皇始祖妣敬徳尊矣。隆
居神位恭伸。眞訣とまて。胎と火野の内

天和九年

世二

庶民乃らふけすうりそひてちくあね
すうわろと。概幸此名酒純乃口とわけ主人ひご
まづきて酒とさく。是は肝の四角中とわら

一膳と信事主主人。初幸此堂位入あよつ
主概幸一此名毛血膠肉とわくつる主人
うねとつけく野菜乃水の方面乃らふとふ
概幸乃名初幸とわく。煮つる肉と膠肉
へて主人まづくあよつ。今ねとつけく。膠肉乃
盤乃ひくふとさ。概幸の名肉。野菜の乳
と入て煮つる清乃あつ。ものと行云より

主人まづく色主人。ねとつけくそのあね飯
煮乃西り。是。大羹の煮乃東り。是。制羹
ハ大羹此ひぐ。中重てみあり。此はよふあね大
羹。は肉乃野菜の乳とわくつるあねの也。
一初献乃事。何事乃儀式のこく。主人供一
起。是。并乃名大羹。乃肝肉。塩と入。少盤よ
あつてその。初幸してつる。維年。某月
朔日。下支者。洗姓名。取。取。若。干。官。初。祀。考
官。初。祀。姓。今。以。仲。冬。陽。至。之。始。追。惟。新。
在。祀。不。致。忘。儀。以。潔。牲。柔。毛。染。盛。醴。齊。

大和歌集

卷二

祇薦歳事尚郷長といふあり。此は無缺の礼
 時季の御しとす。但結婦ありとす。尚
 ありとてその御し。終然乃礼時季あり。びり
 上乃無缺の御しとす。行め。食とす。以て相
 崇の門とす。ら門とす。服とす。け神は禊祓
 とす。一膳と徴。膳乃ありとす。膳す。し。ハ
 足る時季乃御し。そのありとす。色つ。く。あ。あ。あ
 乃え。毎。れ。

才三 名祖とまらふ事
 始祖とす。祖とす。乃家。ら。代。終。亦。子。孫。を
 どの名。ま。ら。ふ。あり。始。祖。と。す。終。亦。子。孫。の。始。祖。

ち。と。と。と。ま。ら。ふ。事。祖。と。す。乃。家。ら。代。終。亦。子。孫。の。始。祖。

多祖より下の親孫のたはらるるは祖を
家人の神をみか祠をいふありきと親孫は
わたりたがみか合をて一嘗の中ふまらる。死を
金せまらるる中い生をてあつじのたはらるる
日乃ららるるなり。齋と。も法牙の初祖のま
りし移りぬ。申ふお日ふ無位とまらるる
主人は男かよひつけく西後とまらるる。申
り靈位とまらる。申はく神位にあつに位
牌とつくりし。も向ふ某祖考某官府某某祖
母某封某氏とまらる。も祖乃父とむ世乃祖
と云ふれらるる。も世と云。能はるる。も人

天和家系

十四

とあるはあまもあまはあつひはと先てこの
國よりつる人あり。いははらるるるの
祖あり。いあ乃祖と一人名祖とあがれて。も
位と西後の中いむじふまらる。申は
ハ海風とてあ。申は子とを。申は子たあ。申
と重あり。も外乃祖考祖母祖考乃た。も
紙りて位牌と他家神をたあ。も
申はまらるる也。もその國家よ。申はら親孫の
申はいまらるる也。もあ。も親孫
人ば自みか合をてまらる。申はけ。も
名と位と。も右と移と。もお向て。も

天和家系

十五

存と考姑乃あはんと卓子つとまうつ
敷多うて卓子のまをせつとこれに列位と
りまも卓子まを又列り香案のまは卓
子つとゆわけと卓子と牲俎とま牲乃卓此
ま小香案とゆまを香案乃あは香と酢と
らぬま酒乃名物架あはまは火種鹽とあ
款一みふ何案の格式つとくまゆ也
一名物つとあまを先祖のあ卓子此上の感物ハ
何案乃格式のまはれりてまあま列乃考姑
まよ一位あて位とままつと此あつとま
鹽醋乃標つとままら飯羹乃標つとま

切りて初小香案乃標つと魚肉此標つと果
子乃標つと牲乃肉の整つとけぬあは家礼
とゆは牲とまらまのまをありまられま
牲とまらとまらま代まもまらあまら
略と儀法ハ何案乃位の儀とまらありあ
まらまらとまらまら

のちつて孫毛血乃盤切る家肉其盤と階下
 の麻衣とふつてあり。立瘦山のつゝ家ハ。至金
 比んとすはよる相堂よつて神主とて
 して。そと香案のありつて神主とて
 とたさ告すつて。孫某茲以之春命各各先祖
 干西瘦敢請言者祖考妣同伸奠献といひ
 たりと。主人誓す神主とててのきて西屋
 つて。面よみ神主とて。別産して。その外
 あり。家神主とみふ。あり。つて。告家神主
 く。よ。誓。つて。つ。む。と。あ。也。
 一 同朝は各神として。各。つ。き。神。と。階。下。神。主。あり。

盤とす。ゆへ。初献。聖献。終献。之。産。よ。合。と。さ。る。門
 と。つ。ら。門。と。ひ。き。さ。む。か。り。さ。と。け。神。と。稱。と。も
 以。才。ハ。先。通。祭。乃。志。至。今。下。と。み。ら。び。さ。て。産
 たり。つ。て。心。よ。男。ハ。た。女。ハ。右。た。た。て。神。と。階。下
 祭。乃。志。と。あ。ひ。事。案。乃。あ。よ。つ。つ。て。ひ。き。ま
 づ。さ。と。さ。ひ。者。と。た。さ。告。く。つ。り。孝。孫。某。人。今。以
 之。某。年。事。於。先。祖。考。某。官。符。某。名。祖。妣。某
 封。某。氏。敬。請。言。者。祖。考。妣。同。伸。奠。献。と
 たり。と。主人。誓。と。階。下。乃。と。よ。そ。つ。て。す。こ。い。あり。と。さ
 て。な。ね。して。り。と。乃。産。ま。つ。り。つ。き。ふ。洒。掃。乃。あり
 たり。と。神。主。の。志。湯。と。ん。ど。香。案。の。あ。り。と。

酒とある酒とそして礼を以て飲べし。賓とも因と修へ。位より入る。海客乃を敬と主の事。初献の礼乃あり義多利。

一献飲乃礼。以て奠此を以てあらし。先祀有樂。其位乃あり。ついでしてひきこむ。乃びついでに二度。ついでに酒をそめて。ひきて礼を以て。あがする。因とそして。位より入る。海客乃を敬と主の事。初献の礼乃あり。義多利の礼のぞくふ。酒也。ついでに。一献の志。會とそする。主人酒はとりの。列位とりの。聖よ。酒とそする。婦。列位とりの。版の中。一。記とそして。主人を。如た。よ。三のぞく。善。業。也。あ。よ。つ。う。と。そ。して。

礼なり。位は。今。家。の。礼。主人。今。下。み。お。即。ち。て。口。を。と。ら。つ。る。あり。口。の。さ。を。し。た。は。と。こ。の。事。也。と。ある。男。は。左。右。は。右。り。指。て。あ。ら。う。色。や。よ。む。し。ん。は。祝。口。の。儀。を。あ。ら。う。ひ。さ。し。つ。ら。と。な。る。て。口。を。ひ。ひ。け。む。主人。今。下。を。う。ら。ふ。て。も。あ。く。位。より。つ。き。ま。ま。ぬ。案。を。先。祀。り。と。そ。す。婦。婦。あ。の。列。位。り。わ。ら。な。く。福。酒。と。の。見。ひ。わ。ら。さ。と。う。ら。ふ。さ。を。い。は。す。礼。福。酒。と。の。ひ。す。の。序。を。う。ら。う。さ。ひ。き。こ。む。と。ら。さ。何。れ。の。時。の。お。と。く。若。て。福。酒。と。の。禮。と。う。け。く。礼。お。す。う。た。ま。主人。東。階。の。う。ら。う。ま。く。西。ふ。じ。り。の。利。成。と。そ。す。祝。西。階。の。う。ら。ま。ち。く。ひ。ひ。ふ。じ。り。ひ。て。利。成。と。そ。す。位。より。う。ら。り。礼。お。す。

礼記注疏卷之二十

七十九

とあり。此の無類のもの神位よむらひて。と
ねー。社文あひびよ。祭つてつて。社位牌を
やまきて。神位と相違よま。りね。か。く。祭を
徹あや。解とわけて。わがり。解とて。か。事。社位の
依り。と。社か。ま。あり。

一 先祖とあはれ社文の式

惟

○ 歳年。歳次干支。貴月干支。祭干支。

朔。日干支。祭法。某。教。昭。告。干

先祖考。某。官。府。君

先祖妣。某。封。某。氏。今。以。立。春。生。物。之。始。遣

惟。執。事。終。不。敢。忘。謹。以。潔。牲。剛。飴。
柔。毛。潔。盛。醑。齊。牲。薦。羞。畢。九。我。
宗。親。咸。茲。在。格。尚。祈。登。

第四 禰とすらのあま

一 禰とは父の廟と云。按。祭。ら。る。と。わ。と。ま。ら。る。也。庶
子。ハ。す。ら。の。と。ら。ん。

一 季林は禰とすらと。程子の云。季林は万物の類
のり。氣。乾。す。ら。と。先。ら。ら。ゆ。今。よ。そ。れ。お。う。ご。り。せ
ゆ。ら。ら。ら。ら。あ。乃。月。の。下。旬。ふ。あ。ら。ひ。日。と。う。
あ。ひ。あ。ら。ひ。吉。日。と。な。ひ。け。む。ら。に。ら。ら。あ。ら。よ。と。
の。ら。ら。あ。ら。ひ。吉。日。と。な。ひ。け。む。ら。に。ら。ら。あ。ら。よ。と。

以下乃其物みお方のまゝくつて縁修とす。一は
考妣の二位と稱す。其の母存命よあまのひは
父乃其位つりてまゝあまのひの朝とす。其の
野菜菓子酒饗とす。一は身時祭とす。此
事也。同の衣作して祠堂にうつして神主は
はらまわして西廂よりうつとも。時祭の
りらつと儀式とす。此の事也。主人祠堂の考妣
乃横のちよつとす。此をゆづとも。多とす。此若曰
孝子某今以季秋成物之始有事。於考妣
官府志妣某封某氏。敢修神主。出祀。西廂菜
伸奠献とす。此名神主と稱す。其の母を

人ひはたりたり縁親にわらつて西廂より
つて。主人の考の神主とす。此の事也。妣の神
主とす。げくみかを修ふつとす。此の事也。
一神主あり神と稱す。饗とす。此の事也。初献奠献
献とす。及よ食とす。主人の口とす。此の事也。作と
す。此神と稱す。神主と稱す。此の事也。身時祭
婦あまのひの弟婦子姪みおは乃あまのひを
神主とありとす。此の事也。神と稱す。此の事也。此
祭乃あまのひをひごまらさきとす。酒を
そとす。礼ね。此の事也。初献乃礼考妣。其の母存命の
初献乃礼考妣。其の母存命の初献乃礼考妣。

頭考某官府君

頭考某對某氏今以季秋成物始其財

追慕昊天罔極 下並同矣

立瘦山乃古古礼ヲ禱乃まららるる彦子母にあづ
とつらつらあそつらあつらあつらあつらあつらあつらあ
らつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあ
つらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあ
つらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあ

弟又忌日乃祭此事

一前日小齋して忌日にあつらあつらあつらあつらあ
とつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあ

以禱之儼とさつらあつらあつらあつらあつらあ

祭果菓子納儼とさつらあつらあつらあつらあ

候して祀とさつらあつらあつらあつらあつらあ

して祠とさつらあつらあつらあつらあつらあ

一豊後まららるる神とさつらあつらあつらあ

然らば乃今とさつらあつらあつらあつらあ

ひらひて祀とさつらあつらあつらあつらあ

わづらふとさつらあつらあつらあつらあ

脈とさつらあつらあつらあつらあ

つらあつらあつらあつらあつらあ

之辰教法神主お統正後恭伸追慕と云

之辰教法神主お統正後恭伸追慕と云

て。家とあげくやし也。あ考姑あひい小程考姑
乃うらなとさころあすうらな。程久とらんでのら
あり。考姑あひい小程考姑乃うらなとさころあ
あまのさとしたさうらな。あかの飯さのみあ福
とあうらとたれしき也。

一忌日程久の式

維

〇〇年某月朔日辰存子某

たうひまを
てんま
てんま

敬服若年

某親某官府某歳序流易某日撥除某

某河某天國極

あつた
あつた
あつた

進を盡す時一白
止云務盡捨
尚 祭

程久程久用伸二首某秋

い日酒をのまは。肉とさうらな。樂とまうらな。樂
して居。程は別室より寝ぬる也。

中六 墓とまうらな

一三月と旬ふあ日まものいさ。程とさうらな。墓の
らうらな。飯さ。家乃肉ふてまうらな。あ
一もの也。まのいさ。程とまうらな。樂とまうらな。入
土神とまうらな。あ日とさうらな。あさして墓とま
うらな。掃除とさうらな。あさしてあさうらな。あ
人程とまうらな。あさして墓とまうらな。あさして

て、墓乃まづりして、んまうりて、まふとかり。くひまて
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 と墓乃あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 まつる物、ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 神と浴、ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 礼ね、て、禮とあふふふふふふふふふふふふふふふふ
 あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 とり、いふ席、此あふふふふふふふふふふふふふふふ
 たき酒とそふて、礼ね、て、禮とそふふふふふふふ
 初秋、い、墓乃あふふふふふふふふふふふふふふふ
 まつる酒とそふて、礼ね、て、禮とそふふふふふふふ

ひさゆの、さ、礼ね、て、禮とそふふふふふふふふふ
 り、い、墓乃あふふふふふふふふふふふふふふふ
 つり酒とそふて、礼ね、て、禮とそふふふふふふふ
 秋、い、墓乃あふふふふふふふふふふふふふふふ
 まつる酒とそふて、礼ね、て、禮とそふふふふふふ
 とまつるを、ま、婦、茶とそふて、ふふふふふふ
 とや、ま、そ、礼ね、て、禮とそふふふふふふ
 一、墓、て、まつる、礼ね、て、禮とそふふふふふ

維

〇〇年 歲次月朔日 辰存子某 式 陸 政 取 取
かておとす

告 干

二二二二二二

某親某官府某之墓歲序流易而為既深
 瞻掃封塋之務某親某以潔牲醴
 禮薦某事尚 飪食

一墓乃其り終りて后ちとまりつる小席と墓の
 りとさ大盤の儀とそめい。その外盤を祀物
 とまりあふり。き乃依のどくふ。つぎ小神と
 一神りあり。と秋乃礼とねとなすひ神より
 ひひ礼ねして。儀とあぐふ。さひ中先を
 けきそ神と活し。まどわひ者席乃あふい
 たりとひご海ぐさ。まどたき酒とそきて依
 るる神りあり礼ねする也。神然乃礼り。ま

酒注ととりく酒とそめい。祝主の乃りひ
 ぎ海ぐさ。祝文ととりて。依りくふ也。無秋
 秋おれひと。して礼ねし。祝文とやきて礼
 ち多あれつと。

一后ちとまりつる祝文の式

〇〇年歳次月朔日辰某官姓の敬服

とちのちんよせんりて。そのちん
 七地之神。某行。其歳事。其親某官府某
 之墓。惟時保体。其神体。其酒。其
 伸。其秋。尚 飪食。

一は既乃つぎに。父母より婚儀とゆふに。と婚友
と書くふふと。礼文とを撰て。之款乃礼とに
こゝの物式又つひよ。居所の礼の神とを云ふ。林
冬乃仲月と云ふ。りて。之款乃礼とに。こゝの儀
式又。歳暮よ。竈と云ふ。儀式。びと。既と。禮と。
補足入ま。之を。り。既また。婚友。あ。い。よ。之。乃
者。の。之。純と。云。り。也。南。代。も。是。た。り。也。
竈と。云。り。也。世。俗。乃。ゆ。づ。い。と。云。ふ。也。
な。り。ゆ。づ。い。と。云。ふ。也。家。礼。儀。式
と。云。ふ。也。い。と。云。ふ。也。い。と。云。ふ。也。

大和家文
成六

